

10.九州（地域別調査機関：（公財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	良く なっている	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・改装して初めての春となったが、客から花屋であることを認識されたことで売上が上がった。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・この3か月間、前月比プラスの販売量で推移している。
（九州）	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・天候に恵まれ、衣料品販売量が回復基調にある。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・当地において市民マラソンが開催されて、県外から多くの出場者が来県したため、売上が増加した。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・3月はちょうど歓送迎会の時期にあたるので、来店客数は少し多かった。また、当地には中国、韓国、香港、台湾などアジアからの客が来ている。
		旅行代理店（企画）	お客様の様子	・海外旅行を含め、申込が増加傾向にある。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・年度末だが、次年度の引き合いは継続案件以外はほぼない。
		通信会社（営業担当）	それ以外	・新年度に向けて新規案件が多くなってきている。
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き
	商店街（代表者）		来客数の動き	・商店街に土日は少しずつ若いカップル等の来街者が増えつつあるが、売上につながっていない。平日は高齢者だけであり、来客数は依然変わらない。
	商店街（代表者）		来客数の動き	・最近、商店街への来街客は韓国、中国、香港、台湾などからの観光客が多い。観光ルートに入っているようだが、当商店街においては爆買いが全くない。
	一般小売店〔青果〕（店長）		単価の動き	・1～2月の酷い寒さの影響で全国の野菜の生産量が少なかったのが、ここにきて暖かくなり生産量は増えてきた。しかし相場の単価は上がり切らず、また需要も伸びず厳しい状況であり、売上は2～3か月前と変わらない。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）		お客様の様子	・3月の最終土曜日は花見の需要が、少し売れた。やはり行事の有無が売上に関係してくる。生活スタイルの変化で、家でお祝い事をするのが少なくなったためか、昔はお祝い事に欠かせなかった連子鯛が今ではほとんど売れない。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）		お客様の様子	・先月とあまり変わらず低調である。ここ数か月、消費者が必要なものだけ購入する、という傾向に変わりはない。店内にはお茶菓子を含み関連商品を多数配置しており、景気が良い時にはあれもこれもと手に取り購入していたが、今ではほとんどない。
	百貨店（企画）		来客数の動き	・競合店の進出後、客足が分散化している。
	百貨店（売場担当）		競争相手の様子	・他店の今月の売上高は前年比100%と聞いており実態はよい。当店は売上高は90%、来店客数は94%であるので、あまり良くない。業態で比較すると百貨店だけが少し悪い。衣料品の動きが良くなく、婦人服が92%、紳士服が85%で推移している。
		百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・2～3月にかけては、新生活ギフトとその返礼など歳時ニーズが顕著なため、年末年始頃と比べても幅広い顧客が来店し購入に繋がっている。一方でファッション商品に対しては反応が鈍く、ヤング・アダルト・中高年向けとも衣料品は苦戦している。本来なら春ファッションの実需ピークにあたる時期だが来店、売上とも鈍い。
スーパー（経営者）		単価の動き	・中国経済の低下による景気の低迷や先行き不安がある。	
スーパー（店長）		来客数の動き	・全体的に客数はほぼ前年比100%で推移している。ただ特価品がある日に客が集中する傾向が強く、ない日には客数が減る状況になりつつある。	
スーパー（店長）		販売量の動き	・来店客数が前年とほぼ同じで、買上点数もほぼ同じである。1人当たりの買上点数も当店の場合は12.5点で前年とほとんど変わらない。	
スーパー（総務担当）		それ以外	・全体的に売上は前年を上回って推移しているが、伸び率はあまり変わっていない。	

スーパー（経理担当）	販売量の動き	・客数は大きな変動はないが、客単価、買上点数が増えている。先月の恵方巻きや今月の雛祭りなどのイベント時に高品質、高価格なものが売れ、プチぜいたくを楽しんでいるようだ。
スーパー（統括者）	競争相手の様子	・各企業によって業況は良し悪しとなっているが、全体的には下降傾向にある。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数としてはやや減少方向で動いているが、客単価が先月よりも上昇したため、売上の的には横ばいである。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・店の品ぞろえにもよるが、寒い日は寒い日りの目的買いだけの客が多い。レジ前にもプラス1品の商品を置いているが、ついで買いする客は少ない。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・景気の変動はない。
衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・入卒用のスーツが例年に比べて全く売れなかった。高額なスーツは敬遠され、低価格のものが人気である。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・当店が主力とする比較的高齢の主婦層の購買においては、意志決定までに非常に時間が掛かっている。物は気に入ったが、他の店を見てくるというかたちで、結局購買まで至らないケースが多々ある。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・3月はいろいろと催事も行い、春物をきれいに売る時期でもあるが、好調な店舗とそうでない店舗があって、総体的にはどちらとも言えない。催事も良い催事とそこまで良くなかった催事が混在している。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・この冬は暖冬ということもあり、とにかく悪い印象しかない。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月は新車、中古車共に売れる期間であり、今年も例年通りの高実績を残している。
その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	お客様の様子	・前年度と比較すると、来店客数と購入単価はほぼ横ばい状態となっている。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は底を打ち、やや上昇傾向にある。満タン給油は増加しているが、期待していたカーケア商品の売上は前年並みである。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] （支配人）	お客様の様子	・アベノミクス、給与引上げなどの政策もあり、そろそろ景気回復との機運、意識を持っている状況下、原油暴落、中国経済不安、株価下落等々の影響ですると下げ基調になる。
その他小売 [ショッピングセンター]（広報担当）	来客数の動き	・景気が上向きという実感が無い。商品の動き、客数をみても手ごたえがない。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] （統括者）	販売量の動き	・気候要因でアパレルなど増減があり、インバウンド消費は単価減ではあるが、客数増により伸びている。このトレンドに大きな変化はない。
高級レストラン（支配人）	単価の動き	・来客数は横ばい傾向だが、客単価は少し上向きの様子である。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・先月から比較すると来客数やフェアへの反応が大変良く、前年よりも売上が良いが、仕入価格の高騰が影響し収支は横ばいである。今月の実績も一過性のものである。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、レストラン部門は順調に伸びているが、婚礼を含む宴会部門が苦戦しており、トータルではあまり変わらない。
都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・客の単価の相場は変わってない。当社も4月より一部値上げの方針があり、今後の消費税増税の動きによってまた変わってくる。
都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・市内のなかでも駅周辺のホテルは平均して個人客がかなり増えている。
タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず観光客数、イベントは堅調さを保っているものの地元の人たちの動きが多少鈍ってきている。具体的に歓送迎会の活気は盛り上がり欠け、買物客の減少もみられる。
タクシー運転手	お客様の様子	・朝夜は多少多くても、昼間がその日その日で営業してみないと分からない、いつもと違うような乗り込み状態であった。

	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・季節要因の変動を除くと、特段の変化がみられない。
	美容室（店長）	お客様の様子	・500メートル先に大手のスーパーができて、周辺は交通量が増え、にぎやかになり、駐車場が満車という状況であるが、近くの商店や当店はいつもと変わらず、景気は良くなっていない。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・サービス業の我々の来客数については、微減ではあるが、ほぼ変わらない状況である。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	競争相手の様子	・4月の介護報酬マイナス改定の影響を受け、同業他社の業績が軒並み悪化しているとともに、業界内での倒産件数も増加傾向にある。
	設計事務所（代表）	来客数の動き	・消費税増税がどうなるか不透明である。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・不動産業のマンション、戸建の分譲においては、ちょうど分譲の引渡しが終わったところで、今から再度ということである。客の引渡しの動きの状況をみても景氣的にあまり変わってないので、現状維持と判断している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月でも寒い日が多く、客の出足が鈍かった。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・前年の秋から天候不順に悩まされている。さらに医療費や社会保障に関わる料金の上昇などの先行き不安から消費は落ち込む一方である。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・前年より確実に来客数が減少している。1人あたり単価は上がってきているので売上、利益率は良いが、客数が減少していることは大きな問題と捉えている。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・当施設の主力である春物のアパレルの動きが極端に悪く、全体を押し下げている。客数はほぼ前年並みだが、客単価が下がっている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・友の会「春コース」の満会、お買物券交換開始での来店と催事での来店頻度増で購買につながると期待していたが、予想に反し、レジ客数、買上単価共にダウンした。好調に推移していた紳士雑貨、自家需要の精肉、鮮魚の生鮮食品にも陰りがみえている。婦人衣料は高級婦人服店を除き依然苦戦している。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・3月というと卒業、入学ほか転勤、異動と人が動くときで客の需要も例年高いものの、客は自分に必要なもの以外は提案しても買わない。これまでよりも確実に客の買物に対する慎重さは高くなっている。
	百貨店（営業統括）	来客数の動き	・気温低下による春物衣料品の動きが厳しい。また景気低迷のなか、高額商品の動きも悪い。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・青果、惣菜、一般食品は販売量の動きが良いが、鮮魚、精肉、住居関連はかなり販売量が減っている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・依然として客数の回復が遅れている。食料品だけは横ばいである。
	スーパー（店長）	単価の動き	・半径1キロ圏内に競合のドラッグストアがオープンしたため、酒の売上が前年比94%に落ちている。青果が相場高で前年からずっと107%で推移しているの、生鮮食料品は順調に103%前後であるが、一般食品のドラッグストアでも強い飲料、菓子関係が影響して、店全体では98%となっており、競合の影響がかなり出ている。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来店する客数が端的なところ減っている。売上自体も非常に厳しい状態が続いている。レジ周り商品を工夫したり、ついで買いを誘うような商品を置くことによって単価を上げることができないか、いろいろと努力しているところである。
	家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・進学、就職期の需要が前年より減少している。
	住関連専門店（経営者）	それ以外	・毎月のキャンペーンはそれなりに順調であるが、店舗での販売は客の買物に対する慎重さがうかがえる。
	ドラッグストア（部長）	販売量の動き	・特定の要因が見当たらないなか、月後半の売上が想定ほど伸びていない状況である。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・3月は歓送迎会等で例年忙しい時期であるが、今年は少ない。

		スナック（経営者）	来客数の動き	・特に週末の来客数が例年に比べて悪い。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・訪日観光客の数は相変わらず好調だが、消費単価が想像よりも伸びていない。国内からの送客も弱い。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・直近の予約が鈍く、前年を下回っている。国内大型テーマパークの周年イベントの直前で出控えもあるが、勢いが無い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・タクシーチケット利用のほとんどが法人である。そのチケット利用が少なくなっているため、法人客の需要がかなり減っている。病院の看護師の送迎タクシーもかなり減っている。かなり厳しい状況である。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・観光地である当地では、日本人客がどんどん減っている状態である。北陸新幹線の影響なのか、あちらのほうに客が流れている。一方でインパウンドの客は少しずつ増えており、なんとか前年比1～2割減で推移している。この先も厳しい状況がまだまだ続く。
		競輪場（職員）	競争相手の様子	・同業他社の売上について、頭打ちから若干マイナス傾向がみられる。
	悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・以前は2月が悪かったが、最近は3月が悪くなっている。購買量が落ちている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・例年3月は繁忙期となり商店街も来街客数が増えるが、この3月は来街客数も増えず、単価がかなり低くなっている状況で、急激に景気は悪化している。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・非常に厳しくなってきた。その要因は複数あり、特に顕著なのは単価で、前年に比べると10%ほど落ちている。来客数、あるいはインパウンドの数字も非常に厳しくなっている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・気温上昇するも来街客がない。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べて景気は悪くなっている。何が原因か分からないが、美容業界では春先の景気回復を期待していたので残念である。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3～4月は異動の時期でもあり、例年好調である。今年もその傾向が強く、居酒屋関連業界は大変好調である。加工メーカー筋の引き合いも依然強く、注文量に対応できないぐらいの状況にある。3月は原料成鳥も十分に加工できたので、3月の売上予想は計画を上回るとみている。
		繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注が増え、例年にはない案件も出てきた。国内の生産工場や技術の継承の重要性が見直されつつある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先月より特注関係も入って、売上は前年比で2月は3割、3月は1割程度伸びている。店の売上も大分良くなっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月に入って、予算制度で動いているユーザーから予算が若干余っているということで、いろいろなパーツの追加発注を3月末で納入するような動きが出てきている。様子を見つつ在庫調整しながらの発注であるようだ。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が非常に安定しており、あと1～2か月はこの状況が保てるのではないかと楽観した見方をしている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・第1四半期までは受注がみえている。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・年度末でもあり、荷動きも増加する傾向にある。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・採用や設備投資を増やさず取引先が多い。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量に関しては多い状況である。問い合わせも多いが原料が端境期のため確保できず、対応できない状況も一部ある。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月は家具業界の需要期であるが、受注金額、受注量、単価共に前年度105%程度となっている。当初の見込みでは120%程度の伸びを予測していたが、現実には前年と変わらない受注状況である。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当工場の製品は景気等の影響をあまり受けない。

金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・東京地区のオリンピック特需は地方に回ってきていない。東京地区においても現在基礎工事が多数あり、製品受注まで至らない。	
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・機械設備やこれらの部品加工の業種におけるこの時期の景気は期末となるため一服感があり、毎年盛り上がり欠けるものである。今年も例年通り受注においては良くない状況である。	
建設業（経営者）	競争相手の様子	・客の様子は以前と変わらないし、受注のほうも以前と変わらない。	
輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は年度末ということもあり、各荷主とも荷動きは好調に推移している。しかし、前年と比べると若干低調気味である。メーカーも在庫をあまり持たず必要な分だけ送ってきているようで、我々倉庫業としては収益の柱となる保管する在庫が少なくなっているの、会社としてはあまり良い状況ではない。	
輸送業（総務担当）	取引先の様子	・例年と比べても物量等にさほど大きな増減はみられない。ただ、顧客に対し採算のとれない部分に対する値上げを要請するものの、慎重な姿勢が見受けられ、景気回復という状況を直接肌で感じることはない。	
通信業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・マイナンバー制度へ対応した需要がひととおり落ち着き、受注量が以前と同レベルになってきている。現在は過去契約分の受注残で一定の収益を確保している状況である。	
金融業（従業員）	取引先の様子	・個人消費は、飲食料品や化粧品等の売上が増加するなど、緩やかながら持ち直してきている。一方、公共投資が減少してきているほか、新興国経済が減速傾向にあるため、輸出関連の生産はやや減少している。	
金融業（従業員）	取引先の様子	・3か月前と比べると、総体的に景気については変わらない。ただ、限定的に小売業など良くなっている業種もあれば、建設業等はやはり厳しい状況といえる。	
金融業（営業）	取引先の様子	・製造業は中国経済の停滞に起因し、3か月ほど前から受注は落ち込んでいる。回復の見通しはないが、悪化してはいない。	
金融業（調査担当）	取引先の様子	・人気の住宅地を中心に、分譲マンション開発のニーズは依然好調である。当県の不動産価格の常用は好調である。	
金融業（営業担当）	取引先の様子	・2月に日銀マイナス金利がスタートしても、中小企業全般に借入をして設備投資をする動きは見受けられず、現状は変わらない。	
新聞社（広告）（担当者）	受注量や販売量の動き	・年度末の予算消化もあり、「官公庁」や「不動産・エネルギー」などで前年を超える出稿があったが、売上をけん引している「通信販売」と「旅行」広告が前年80%台と申込が鈍く、全体でも90%を割り込む状況となっている。	
経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・セミナー関係のチラシを配ったが、反応が少ない。	
その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村から発注される調査、計画、設計の業務は、3月補正の予算でも追加発注の案件は少なく、新たな受注は見込めないことから、景気は下向きのままで推移している。調査や計画策定など来年度にまたがる発注が行われていても、本数は少ない。	
その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・増収見込みの取引先が多い。4月以降の設備投資の予測も多く、3か月前と比べれば変わらないが、前年よりは景気回復している。ゼロ金利政策から当社の資金繰りにも余裕がある。節税対策用の商品問い合わせもあった。	
やや悪くなっている	農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・需給バランスは悪くないのに市況の価格などが下降傾向にある。
	その他製造業（産業廃物処理業）	取引先の様子	・仕入先では市場低迷、供給過多等で業績が伸びず、また、急な受注に備え在庫を抱えていたが思うように受注が伸びず、在庫は使用期限切れで廃棄という無駄が連鎖している。製造ラインもほとんど動いていない。
	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の繰越工事がほとんど発注されておらず、手持ち工事のほとんどは年度内での完了となり、新年度から社員や作業員をどう配置するか苦慮する。民間工事の依頼も少なく官公庁の下請に頼りたいが、どの官公庁も発注が少ない。

	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・3月は気候的なものなのか、理由はよく分からないが、2月に比べると全般的にあまり良くない。前年末が割と調子が良かった分だけ、今年の春先は低調であるようだ。	
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・ワインの売上は上がっていて低価格ワインが特に売れている。	
	悪くなっている	-	-	
雇用 関連  (九州)	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・パートを含む新規求人数は前年同月比21.4%増、5か月連続で2けたの増加で、過去最高だった先月を更新したかたちとなった。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度末の特需かもしれないが、日々求人オーダーがある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・当地は引き続き、中国、韓国を中心としたアジアからの外国人観光客の買物客が堅調だが、客単価が低くなっているようで、今後の動向が懸念される。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・注文数がほぼ同じである。今月きた注文も、新規より後任を探す注文が多いので、増員で注文を出している企業は少ない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・正規採用が増えている実感が無い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年11月～今年1月の3か月の総数をみると、総数10,372件に対し、今年の11～1月は総数11,154件となっており、求人数は780件ほどの増である。一方、新規求職者は前年の160人ほどの微減である。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ここ4か月間の新規求人数の動きは前月比でマイナスの状況にあることが多いのに対して、最近2か月間の新規求職者数の動きは前月比でプラスの状況となっている。しかし、このことが人手不足の状況に対して効果的な影響を与えるほどのものではないことから、景気は変わらない。
		職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・新規求人数及び有効求人数の前年比での増加傾向が続いており、有効求人倍率も高い水準で推移している。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・3月の採用広報解禁前後に2017年卒向けの求人が集中して届いているが、求人数としては微増である。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・4月は求人数が伸びる時期ではあるが、長期、短期求人を含め、欠員補充の求人が多く前向きな要因での依頼は少ない。
人材派遣会社（社員）		求人数の動き	・3～4月以降の派遣スタッフの依頼が非常に多く、前月比を大きく上回るのが通常だが、今期は前年と比較すると前月からの伸び率が低い。また、前年同月比と比べても依頼件数も下がっている。	
人材派遣会社（社員）		求人数の動き	・今月に入り急に求人数が落ち着いた。本来であればもう少し動きがあってもよい時期であるが、求人倍率等をみても横ばいの傾向が強い。新年度になると一旦更に動きが落ち着くので上向き感はない。	
求人情報誌制作会社（編集者）		求人数の動き	・地元企業が中心のフリーペーパー求人誌を取り扱っているが、市場の求人件数の伸びと逆行して当社の取扱件数は横ばいが続いている。人材確保に苦しむ地元企業になかなか打つ手がないのが実情である。	
民間職業紹介機関（支店長）		求人数の動き	・労働者派遣需要が前年に比べて横ばいであり、需要増とはほど遠い。	
悪くなっている	-	-	-	